

7 中和田小学校と
もろなり 山田専成・とよじろう 豊次郎

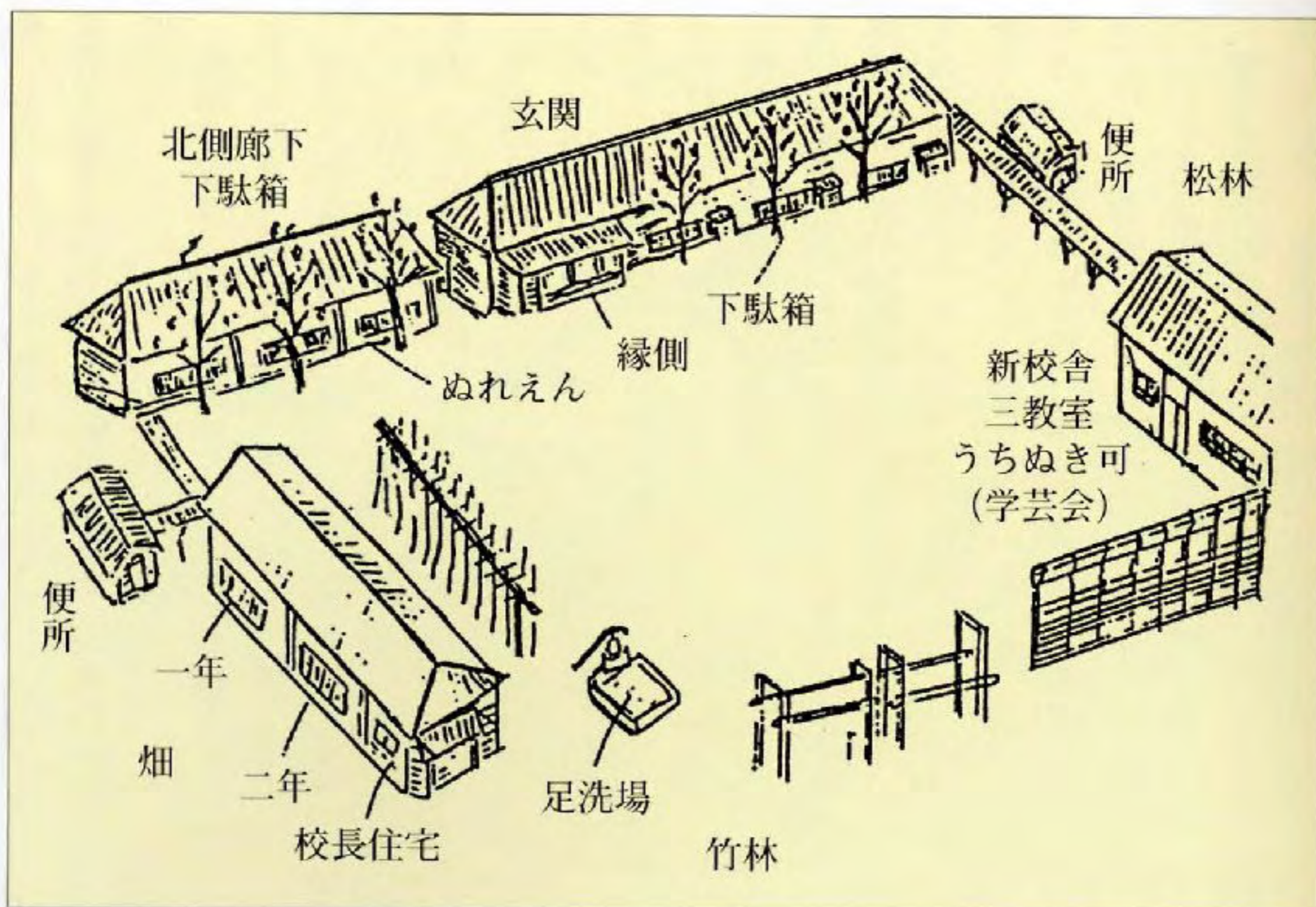
明治二十三年（一八九〇）、学齢に達した児童は、全て就学することとされ、小学校の設置が各市町村に義務づけられた。

前年に、四か村が合併してできた中和田村には、中田学校、和泉学校、飯田学校の三校があった。初代村長清水源右衛門は、「尋常小学校設置案」を村議会にはかり、三校を統合して「中和田学校」とし、中和田村和泉地蔵原三六二八〜六三番地に新校舎の建設を決めた。

明治二十四年十二月、茅葺き平屋建ての新校舎が完成した。従来の三校を使って勉強していた児童は、翌二十五年一月から新校舎で授業を受けることとなった。

当時、児童の通学区域は、中田、和泉、上飯田、下飯田の全域で、遠い児童は四km余りの砂利道を通わねばならず大変であった。そこで、低学年児童のために、東部分教場（現南農協中田支所横）、南部分教場（現中和田南小学校東下の和泉川沿い）、北部分教場（現飯田北小学校）が設置された。

明治二十五年五月十七日、「中和田学校」を中和田村立尋常中和田小学校と改称し、初代の校長に飯田学校で教鞭



地蔵原にあった頃の小学校

をとっていた山田専成が就任した。

山田専成は、嘉永六年（一八五三）四月十三日、美濃国
中島郡三柳村（岐阜県羽鳥市）に山田則秀の次男として生
まれた。

明治三年に東京に遊学した専成は、明治八年に鎌倉郡大



山田専成頌徳碑



山田豊次郎顕彰碑

船の玉繩学校に奉職し、十一年九月十九日には中和田村の
矢沢吉之丞をはじめ有志の勧めにより、飯田学校に奉職し
た。

山田専成は、明治四十四年の中和田村青年会結成に際し
会長となり、地域の青年の指導にもあたった。

大正三年に退任するまで、二十年余りを中和田小学校長
として勤められたので同年九月、地域の人々は恩に報いる
ため、『山田専成頌徳碑』を建立した。

専成の退職に伴い、弟の豊次郎が、二代目の校長に就任
した。山田豊次郎は、明治十二年一月二日、山田則秀の五
男として生まれた。兄専成を頼って当地に来住し、中和田
小学校で学び、卒業後は十六才で母校に奉職した。

豊次郎は、新校舎の建設、芦田式国語教育法の研究と普
及、不就学児童の就学の督促、補習学校での地域青年への
実業教育や青年団の育成、中堅青年養成のための有終団の
生みの親として、また神奈川県教育会五十年誌の編纂など
数々の業績を残した。昭和六年の退職後、村内有志が、中
和田小学校南隣を安住の地とされることを願い、立派な住
宅を建てて寄贈した。その後、三十九年に、教え子たちが
『山田豊次郎顕彰碑』を兄専成の碑の隣に建立した。

関東大震災の時には、中和田小学校は校舎が倒れるなど
使用不能の大被害を受けた。九月中旬、授業を再開したが、

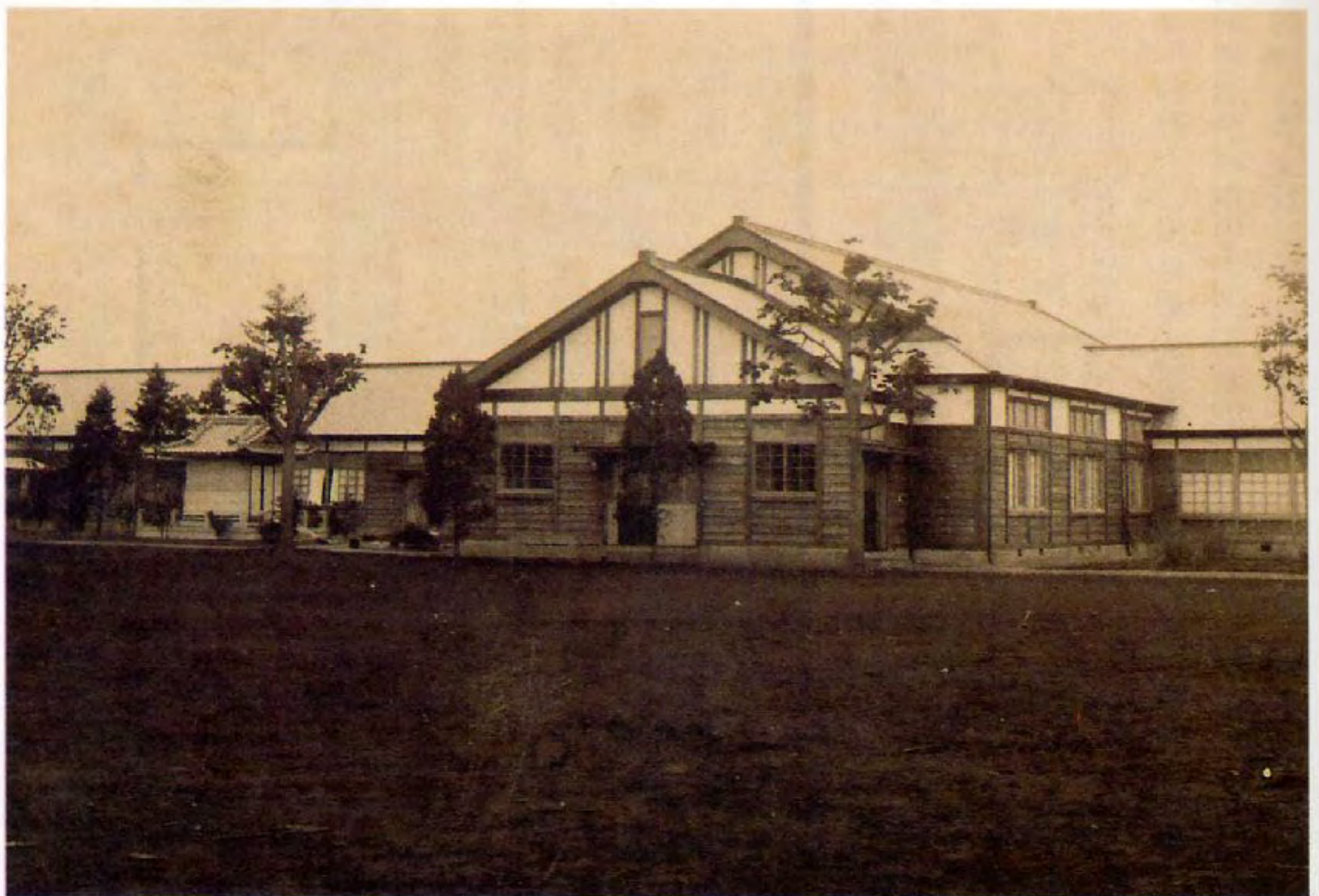
校舎の修理が終わるまでは林間での授業であった。一年生から四年生までは招魂社で行われ、五年生から高等科二年までは須賀神社後方の山林で授業を行ったのである。

十月に校舎の修理が終わり学校での授業が始まったが、教室不足から一・二年と三・四年の二部授業であった。校舎の改築が必要となり、村議会で協議が行われ、それとともに広い校地への移転と校舎の新築が取り上げられた。その後、大正十五年に中和田小学校は地藏原から現在地に移転し新築された。建設は地域の人々の勤労奉仕を得て行われ、敷地六千余坪（二万余 m^2 ）、校舎一千二百余坪（四千余 m^2 ）の近村にない立派なものであった。

戦後は、中田町より徐々に人口が増加して、昭和二十六年には東部分教場が独立して中田小学校となった。

昭和四十年代には、和泉、飯田地区も人口が急増し始め、中和田小学校区には、十二の小学校が誕生した。長年、地域の人々に慣れ親しんできた校舎も老朽化し、昭和四十四年に鉄筋校舎と変わり、その後増築を重ね現在に至っている。

明治二十五年五月十七日、「尋常中和田小学校」として開校した中和田小学校では、百年目の平成四年五月十七日に盛大な百周年記念式典が行われ、『百年のあゆみ』が刊行された。



大正15年新築時の小学校校舎

中和田小学校と周辺の小学校

